

103

contents

常設展予告
「雪舟への旅」展
年間スケジュール

天花

TENGE



雪舟 「傲李唐牧牛図(渡河)」 山口県立美術館蔵

特別展

第21回国民文化祭・やまぐち2006特別企画展—没後500年記念

「雪舟への旅」

11/1wed~11/30thu

表紙作品解説

雪舟 「倣李唐牧牛図(渡河)」15世紀
紙本墨画淡彩 30.3x31.2cm
山口県立美術館蔵

水牛の背に乗って川を渡る親子の姿です。親子二人と水牛とで畑仕事を終え、家路についているところなのでしょう。

水墨画というと「墨一色で描いた絵」というイメージがけっこう強いのですが、絵によっては色を使うことも珍しくありません。この絵でも、多くの部分に着色がほどこされています。川の水のごく薄い藍色。親子の顔や手、父親が着ている蓑には茶色。親子の服の輪郭に沿って白色。水草や竹の葉には緑色。芦には薄い茶色。岩には藍色。

実は「色の美しさ」という点も、雪舟の絵の素晴らしさのひとつとして高く評価されていることなのです。

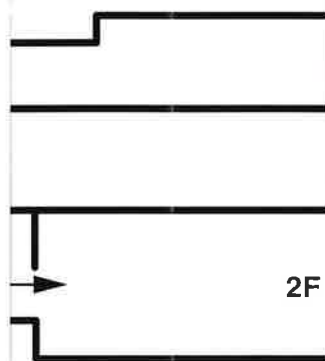
この絵は団扇の形に墨で枠が作ってあり、その中に絵が描かれます。画面左下、枠の内部に「雪舟」という落款(サイン)があり、その下の枠の外には「李唐」と書かれています。李唐(正しくは、唐ではなく唐の字を使います)は、中国の十二世紀前半に活躍した、牛の絵が得意だったことが有名な画家です。雪舟は李唐の名前を書き記すことによって、この絵が「李唐」スタイルの絵であることを明らかにしているのです。

雪舟の時代の水墨画家たちは、中国の有名な画家のスタイルにならって絵を描くことを求められていました。また、何人もの画家のスタイルで描き分けられることが、能力の証しでもあったのです。

この絵は、さまざまな中国の有名画家のスタイルによって描かれた、もともとは十二枚のセットだった作品のうち一枚です。(当館学芸員 荏開津通彦)

雪立の風景を実際のスケッチしたもの。80歳をこえた雪舟のリアリズムに驚嘆。

30(木)



く図巻

博物館蔵

におよぶ山水のスペクタクル。
政弘に献上した記念碑的

)~12(日)

い!
利博物館(防府市)に

ホームページ(<http://www.yma->

常設展予告

香月泰男室

「桂ゆきの世界」 12/12~2007/2/25

代々長府藩士をつとめた家に生まれた桂ゆき(1913~1991)は、コラージュを使った作品で、戦前から前衛画家として注目されました。社会に対する鋭い皮肉とほのぼのとしたユーモアが同居する、桂ゆきの絵画世界を紹介します。



桑重儀一「外国風景」
山口県立美術館蔵

小林和作室・資料展示室

「山口県ゆかりの洋画家」 12/12~2007/2/25

太平洋画会創立メンバーで帝展審査委員もつとめた永地秀太(1873~1942:下松市出身)、アメリカとフランスに留学した桑重儀一(1883~1943:岩国市出身)など、主に大正・昭和初期にかけて活躍した画家から、香月泰男(1911~1974:長門市三隅出身)まで、山口県にゆかりの深い洋画家たちを紹介します。



桂ゆき「つぶされた」1973年
山口県立美術館蔵

郷土工芸室

「植木茂の小品展」 12/12~2007/2/25

日本の抽象彫刻のパイオニアとして知られる植木茂(1913~84)は、木彫を中心に制作を行いました。木という材質の持っている生命感をあらわすような「トルソ」シリーズを中心に、金属彫刻も含む小品作品を紹介します。



植木茂「冤小屋の住人」
山口県立美術館蔵

第二常設展示室

「日本水彩画会の二人—河上左京と河上大二—」 12/27~2007/2/25

山口県の洋画史が永地秀太からはじまったとすれば、山口県の水彩画史は河上左京(1889~1971)と河上大二(1893~1949)のふたりによってはじまったといえます。ふたりは従兄弟同士で、左京はマルクス経済学者、河上隆の弟。岩国から上京して日本水彩画研究所に入り丸山晩露、石井柏亭などについて水彩画を学び、日本水彩画会、二科会などで活躍しました。大二は東京美術学校に学び、帝展、文展で活躍しました。大正から昭和初期にかけて活動したふたりの対照的な個性を紹介します。

美術館ボランティアによる「常設展ギャラリーツアー」

毎週土曜日 13:30~ 30分程度 常設展観覧券をお持ちのうえ、常設展示室入口にお集まり下さい。

臨時休館のお知らせ

12/1(金)~11(月)は臨時休館いたします。ご迷惑をおかけしますが、どうぞご了承ください。

第21回国民文化祭・やまぐち2006特別企画展——没後500年記念

雪舟への旅

The Trip to Sesshu

2006年11月1日|水|—30日|木|9:00—19:00

山口県立美術館 観覧料：一般1,300円(1,100円) 学生1,100円(900円)
◎()内は前売りおよび20名以上の団体料金。◎入館は18:30まで。◎休館は11月15日(水)のみ。

◎18歳以下、70歳以上の方、および高等学校・専門学校・養護学校に在籍の方は無料。◎教育文化週間：11月1日(水)～7日(火)はすべての方が無料。◎前売り券はJR西日本の主な駅のみどりの窓口、JTB各支店、JTBトラベランド各店、JTB総合提携店、ローソンチケット(Lコード：62251)および県内各プレイガイドでお求め下さい。プレイガイド詳細は、展覧会HPにてご確認ください。
◎交通案内：JR新山口駅から山口線に乗り換え山口駅下車、徒歩約15分。JR新山口駅からJRバス山口行きで約30分。JR防府駅からJRバス山口行きで約35分。
[山陽自動車道]防府東ICから車で約25分。[中国自動車道・広島方面から]山口ICから車で約15分。[中国自動車道・九州方面から]小郡ICから車で約25分。
◎主催：山口県立美術館・NHK山口放送局・読売新聞西部本社・山口県立美術館・山口市・防府市
◎特別協賛：セブイハイム中国株式会社 山口支社・果子乃季・西京銀行 ◎協賛：宇部興産株式会社 富士商株式会社
◎特別協力：セントラル硝子株式会社
山口県立美術館 〒753-0089 山口県山口市仏山町3-1 tel: 083-925-7788 <http://www.yma-p.jp>

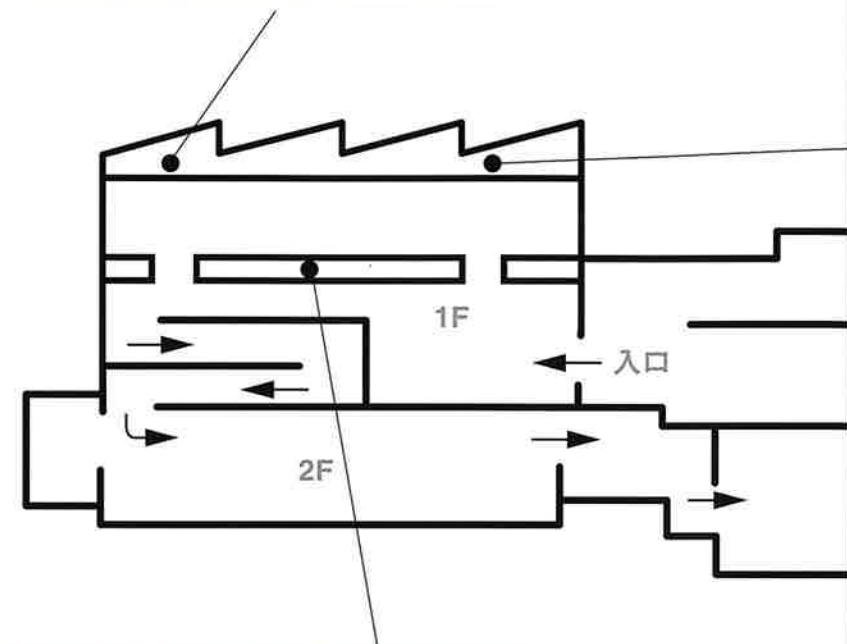
日本を代表する画家・雪舟(1420～1506?)。岡山に生まれ、京都に上った雪舟は、三十代の半ばで新たな夢を求めて山口にやってきます。山口を支配していた大内氏の庇護を受け、当時の先進国、明(中国)にわたったのは、かぞえの48歳のとき。帰国した後、独特の画風をうちたて、山口を本拠にしながら活躍しました。山口に来たことをきっかけに、雪舟の才能は大きく花開いたといえるでしょう。ゆかりの地・山口で開催される今回の展覧会では、国宝6点を含む61点で、雪舟の魅力にあらためて迫ります。

国宝作品のご案内



天橋立図
京都国立博物館蔵

日本三景のひとつ天橋立の風景を実際ケッチにもとづいて描いたもの。80歳をこ最晩年の作。500年前のリアリズムに驚嘆
【11/16(木)～30(木)】



四季山水図巻
1486年 毛利博物館蔵

全長16メートルにおよぶ山水のスクロールの大内政弘に献上した作品。
【11/1(水)～12(日)】

※ご注意ください!
13日からは毛利博物館(防府市)で展示します。

(部分)

※11月15日(水)は展示替えのため休館します。
※国宝作品の他にも、一部の作品で展示替えを行います。詳しくは展覧会ホームページ(<http://www.yma-p.jp>)

展示替えがあります。【 】内の展示期間にご注意ください。



慧可断臂図

1496年 齊年寺蔵

日本一有名な達磨の絵。面壁坐禅して全く口を開かない達磨から、なんとかしてその教えを聞きだそうとした慧可が、自分の腕を切り落として覚悟を示した、という場面。圧倒的な達磨の迫力、凄まじい岩の描写。絵の前に立つとクラクラします。

【11/1(水)～30(木)】



山水図

個人蔵

(部分)

雪舟の没後、山口の雲谷庵に残されていた絶筆。雪舟の友人・了庵がこの絵の上部に記した賛から、1507年には雪舟が亡くなっていたことがわかる貴重な作品。雪舟の人生と芸術のすべてがこの絵の中に凝縮されているかのようです。

【11/1(水)～30(木)】

山水図

東京国立博物館蔵

山口を離れる弟子のために、雪舟が描き贈った絵。絵の上に記された雪舟自筆の文章も必見。

【11/1(水)～14(火)】

秋冬山水図

東京国立博物館蔵

雪舟の絵の中でも、もっとも有名なもの。教科書で見た人も多いはず。

【11/16(木)～30(木)】

の
ス
え
た
。

ビ
ク
タ
ク
ル
。
3
念
碑
的

に

<http://www.yma-p.jp> をご覧いただくか、美術館までお問い合わせください。

事前申込の必要なイベント・サービス

●講座

「雪舟と山口——室町時代編」

雪舟が生きた時代の山口を、発掘の担当者と美術史家が発掘現場で解説します。

講師:古賀信幸(山口市文化振興課)、島尾新(多摩美術大学教授)

日時:11月11日(土)14:00～16:00 集合場所:大殿公民館前

定員:30名(事前申込・先着順)

●子供のためのワークショップ ※小学校5・6年生・中学生対象

1.「水墨画を味わう——山水長巻の世界を旅しよう」
山水長巻の四季を見つけよう!

日時:11月4日(土) 9:30～11:30

会場:山口県立美術館講座室 定員:24名(事前申込・先着順)

2.「水墨画にチャレンジ——筆づかいを極めよう」
キミは雪舟みたいに描けるか?

日時:11月4日(土) 12:30～14:00

会場:山口県立美術館講座室 定員:24名(事前申込・先着順)

●大人のためのワークショップ

1.「雪舟への小さな旅」

美術館から大殿地区までを何回か散策します。

日時:11月12日(日) 10:00～17:00

講師:鈴木淳(美術家) 参加人数:20名(事前申込・先着順)

2.「国宝にどっぷりつかって詩心をほぐす秋の一日」

日時:11月18日(土) 14:00～16:00 講座「雪舟がみた京文化」を受講します。

11月19日(日) 10:00～15:00 国宝を鑑賞して、心に浮かんだことを言葉にします。

講師:中村淳子(詩人)、高橋範子(正木美術館主席学芸員)

会場:山口県立美術館講座室

定員:36名(事前申込・先着順) ※11月18日・19日の2日間の受講となります。

■イベントのお申し込み方法

官製往復はがきかE-mailに、1参加希望講座・ワークショップ名、2住所、3氏名、4電話番号、5年齢を記入のうえ、下記までお申し込みください。

■託児サービス「ちびっこルーム」

展覧会会期中、毎週木曜日10:00～13:00に無料の臨時託児所を用意します。利用する週の月曜日までに電話、またはE-mailでお申し込みください。

■各種お申し込み・お問い合わせ先

〒753-0089

山口県山口市龜山町3-1「山口県立美術館普及課」

TEL: 083-925-7788

E-mail: a50702@pref.yamaguchi.lg.jp

2006-2007

schedule

山口県立美術館 平成18年度年間スケジュール

特別展

常設展

4	4/7~5/27 ウィーン美術アカデミー名品展 ゴッホ・ホルバイン	4/1	山口県立美術館 （常設展） 平賀源一の世界	4/1	山口県立美術館 （常設展） 平賀源一の世界
5	5/26~6/4 伝統工芸新作展	6/11	山口県立美術館 （常設展） 平賀源一の世界	5/30	山口県立美術館 （常設展） 平賀源一の世界
6	6/27~7/23 雲谷派展Ⅰ	6/13	山口県立美術館 （常設展） 平賀源一の世界	6/25	山口県立美術館 （常設展） 平賀源一の世界
7	7/25~8/20 雲谷派展Ⅱ	8/20	山口県立美術館 （常設展） 平賀源一の世界	8/13	山口県立美術館 （常設展） 平賀源一の世界
8	8/25~9/24 第10回やまぐち県立文化祭 第60回山口県美術展覧会	8/22	山口県立美術館 （常設展） 平賀源一の世界	8/15	山口県立美術館 （常設展） 平賀源一の世界
9		10/1	山口県立美術館 （常設展） 平賀源一の世界		

10/2~10/31 臨時休館

11/1~11/30

没後500年記念特別展覧会 雪舟への旅展

12/1~12/11 臨時休館

12/19~12/24 第58回学校美術展覧会	12/12			
1/11~1/14 山口県高等学校総合文化祭 展示部門展	12/27	植木茂の小品展 桂ゆきの世界	山口県ゆかりの 洋画家	日本水彩画会の 二人 一河上左京と 河上大二
1/31~2/4 山口県立大学卒業制作展	2/25			
2/8~2/11 山口芸術短期大学卒業制作展	2/27	現代の陶芸Ⅲ 宮崎進の世界	永地秀太 の世界	中村正也 の写真
2/15~2/18 山口大学卒業制作展				松林桂月の世界

Information

■休館日

月曜日（月曜が祝日もしくは振替休日の場合は翌日休館）
年末年始（12月28日~1月3日）
10月2日~31日、12月1日~11日

■開館時間

9:00~17:00（入館は16:30まで）

■料金

常設展：一般190（160）円 学生120（100）円
（ ）内は20名以上の団体料金
特別展：別途に定めた料金
常設展・特別展ともに18歳以下と70歳以上および高等学校、
盲・ろう・養護学校に在学する方等は無料。
教育文化週間11月1日~11月7日は全ての方が無料。

山口県立美術館
The Yamaguchi Prefectural
Museum of Art
〒753-0089
山口市龜山町3-1
TEL:083-925-7788
FAX:083-925-7790
<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/kenbi>

